

NO. 300

じゅんあい

平成24（2012）年3月1日

天にある住みか



「わたしたちの地上の^す住みかである^{まくや}幕屋が^{ほろ}滅びても、神によって建物が^{そな}備えられていることを、わたしたちは知っています。

人の手で^{つく}造られたものではない天にある^{えいえん}永遠の住みかです。」

（新約 コリントⅡ 5：1）

「この世での生活がすべてである。」と言う人が多い。

それ故、食べ、飲み、着、よき家に住むことを願う。又、地位、名誉、財産に憧れる。彼らは、この世の世界だけでなく、神が備えられる“永遠の住み家”があることを知らない。

「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行く先も知らずに出発したのです。

信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。

アブラハムは神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。」

(新約 ヘブライ 11 : 8~10)

「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでしたが、はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。

このように言う人たちは、自分が故郷を探し求めていることを明らかに表しているのです。

もし出て来た土地のことを思っていたのなら、戻るのに良い機会もあったかもしれません。

ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。

だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいません。

神は、彼らのために都を準備されていたからです。」

(ヘブライ 11 : 13~16)

この世での生は、全てではなく一時的。後の世での生活は永遠である。アブラハムをはじめ、世々の聖徒達は、この世では借り住まいのような日々を過ごした。

「あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。」（新約 ヨハネ 8 : 56）

わたし(キリスト)の日、即ち、キリストが十字架の贖いによって万民の罪の贖いが完了すること。墓を打ち破り復活すること。さらに天に上り弟子達に約束の聖霊を注ぐこと。

「この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。」（新約 エフェソ 1 : 14）

アブラハムは、この大いなる日を楽しみに待ち望んでいた。



そしてさらに、
「実に、キリストはわたしたちの平和であります。

二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。

こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近

さて、最後の七つの災いの満ちた七つの鉢を持つ七人の天使がいたが、その中の一人が来て、わたしに語りかけてこう言った。

『ここへ来なさい。小羊の妻である花嫁を見せてあげよう。』

この天使が、“霊”に満たされたわたしを大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のもとを離れて、天から下って来るのを見せた。都は神の栄光に輝いていた。その輝きは、最高の宝石のようであり、透き通った碧玉のようであった。」(新約黙示録 21:1~7、9~11)との贖いの最高峰を夢見て待ち望んでいた。

「わたしは、都の中に神殿を見なかった。全能者である神、主と小羊とが都の神殿だからである。

この都には、それらを照らす太陽も月も、必要でない。

神の栄光が都を照らしており、小羊が都の明かりだからである。

諸国の民は、都の光の中を歩き、地上の王たちは、自分たちの栄光を携えて、都に来る。

都の門は、一日中決して閉ざされない。

そこには夜がないからである。人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る。しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れない。小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れられる。」

(黙示録 21:22~27)



「天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。川は、都の大通りの中央を流れ、その両岸には命の木があって、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。

そして、その木の葉は諸国の民の病を治す。

もはや、呪われるものは何一つない。神と小羊の玉座が都にあって、

神の僕^{しもべ}たちは神を礼拝^{れいはい}し、御顔^みを仰ぎ見る。彼らの額^{あお}には、神の名^{ひたい}が記^{しる}されている。もはや、夜はなく、ともし火^びの光も太陽の光^いも要らない。神である主^{しもべ}が僕^{しもべ}たちを照らし、彼らは世々限りなく統治^{とうち}するからである。

見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報^{むく}いを携^{たずさ}えて来て、それぞれの行^{おこな}いに応^{おう}じて報^{むく}いる。わたしはアルファであり、オメガである。最初^{はじ}の者にして、最後^{はじ}の者。初^{はじ}めであり、終^{はじ}わりである。

命^{いのち}の木に対する権利^{さきわ}を与えられ、門^{かど}を^も通^とって都^{みやこ}に入れるように、自^{おの}分の衣^{ころも}を洗^{さい}い清^{きよ}める者は幸^{さいわ}いである。」

(黙示録 22 : 1~5、12~14)

“天^すの住^すみか” —— これを知^しったなら高山^{たか}右^{みぎ}近^{かた}の如^{ごと}く、この世^よよりキリスト^{きりすと}へ、この世^よの富^{とみ}より天^{たか}の宝^{たから}へ。

愛^{ゆえ}故^{ゆえ}に、キリスト^{きりすと}のために殉^{じゆん}教^{ぎやう}を！！ と望^{のぞ}むほどに変^かえられるであらう。

「以上^{あか}すべてを証^{かた}しする方が、言^いわれる。

『然^{しか}り、わたしはすぐに来る。』

アーメン、主^{きりすと}イエスよ、来^こてください。」

(黙示録 22 : 20)

[()は聖書の箇所です。また、旧約聖書・新約聖書を旧約・新約と表示しました]

殉愛キリスト教会

牧師：山 縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/>